

令和5年度 第2回北九州市口腔保健推進会議 議事概要

1 日 時 令和5年10月24日(火) 19:00~20:30

2 開催場所 北九州市役所 3階大集会室

3 出席者 [構成員]

濱寄座長、池本構成員、板家構成員、浦部構成員、小畑構成員、
河野構成員、川元構成員、重國構成員、白木構成員、中元構成員、
堀田構成員、増本構成員、眞鍋構成員、山口構成員、力久構成員

[事務局]

保健福祉局健康医療部長、保健福祉局健康推進課長、保健福祉局
認知症支援・介護予防センター所長兼健康推進課口腔保健支援セ
ンター担当課長、教育委員会学校保健課長、子ども家庭局保育指
導担当課長、ほか

4 議 題

(1) 歯科口腔保健推進計画※の素案(たたき台)について

※次期健康づくり推進プランに包含

資料①、②、参考資料③、より事務局から説明

<主な意見等>

【乳幼児期・学齢期について】

- ・乳幼児期は、保護者への情報提供が重要である。
- ・共働き世帯が増えており、子育て教室等に参加できない保育所等の保護者を対象に歯みがきの仕方等を伝える出前講演などの集団歯科保健指導があれば良いと思う。
- ・乳幼児期・学齢期からの歯科保健指導は重要である。
- ・家庭での取組みは、経済的な問題によって差があるため、学校で取り組む必要がある。
- ・小学校における歯みがき指導は、令和5年度から全校実施にはなっているが、現時点で半数程度しか、手挙げがない。
- ・歯みがき指導の際、市から歯ブラシを準備してもらえることはありがたい。
- ・学校歯科検診でむし歯があっても治療に行かない児童にもフッ化物洗口は有効であるため、多くの児童に実施してもらいたい。
- ・フッ化物洗口について、児童数の多少による格差や教員の意識にも差がある。また、学校ごとの考え方の違いによって、実施率に差がある。フッ化物洗口の良さや工夫(児童主体で行う等)しだいで負担が軽減できること等について、教員の理解を得る必要がある。
- ・フッ化物洗口の導入による効果については、長い目で見ていく必要がある。

【成人期について】

- ・大学生から歯科健診が任意になり、意識が薄れてしまっている傾向にあると思う。
- ・就労世代への取組みについて、行政、地域の歯科医師、企業が連携して進める必要がある。
- ・就労世代への取組みを行うには、企業の経営者に歯科口腔保健の重要性を理解してもらう必要がある。市の出前講演等を活用して、講演会やシンポジウム等を積極的に行うと良い。
- ・企業の健康診断の際に、歯科健診を実施することが理想だが、コスト等の問題によりなかなか難しい。コストがかからず手軽に出来る取組み等について、企業に積極的に情報提供していく必要がある。
- ・職域において、スクリーニング検査が主目的の集団健診ではなく、より予防を推進できる個別健診に取り組んでもらいたい。予防に取り組むことで、医療費の削減にもつながる。

【壮年期・高齢期について】

- ・成人期から壮年期は、仕事に追われて忙しい時期であるため、歯科健診等へ行くことについて、何らかのメリットがないと難しい。
- ・現在500円で実施している歯周病検診は、無料でできないのか。
→市民のアンケート調査の結果、歯科を定期的に受診していない理由として、「時間が無い」「必要性がない」等の意見が費用面と同様に多くあったため、まずは、歯周病検診やかかりつけ歯科医をもつことの必要性についての周知啓発を強化していく予定である。
- ・他政令指定都市等の成功事例等を調べて、効果的な方法について取り入れると良い。
- ・新型コロナウイルスの影響により、オーラルフレイルがかなり進行している。
- ・在宅高齢者の歯科の受診控えが大きな課題である。
- ・入院した際、胃瘻を造設しても、訓練をすれば経口摂取できるようになる方もいる。
在宅や施設の考えとしては、できるかぎり、その方の嚥下機能に応じた食形態で摂取してもらい、低下した嚥下機能が回復できるように努めていきたい。
- ・北九州市では、ケアマネジャーがケアプランを作成する際に、かかりつけ歯科医の有無、歯科の最終受診日を確認するよう、マニュアルの中に位置づけている。
- ・高齢者においては、かかりつけ歯科医を持つことは重要であるが、認知症等により受診ができなくなる等で、つながりにくくなる傾向もある。
- ・市歯科医師会には、訪問歯科診療等の相談窓口があるので、活用してほしい。

【その他】

- ・障害者施設で口腔ケアに力を入れている施設は少ないと思う。
→今後、普及啓発のテーマに「歯と口の健康」も取り入れたい。そのためには、まず、施設の職員が「歯と口の健康」の重要性について理解する必要がある。
- ・皆で協力して予防に取り組むことが重要である。